

MDAレポート

No.3号
2010年4月19日

美味とは何か？（1）



—美味について—

ものの“味”などと言うものは、個人的な好みや、生理的なものが大きく関係しているが、スナホに“おいしい”と感じる、と云うことの要素は内、外環境の「電気の濃度が高い」と云う事であり、新鮮なものが美味しいのも「電子の活性点が多い」ものと考えられます。

—うまさとは何か—

（1）五つの味覚

うまいものをおいしく食べるといいますが、この「食べる」という行為は、単なる生理的要求という以上に、人間が生きていくための極めて初源的な手段ではないでしょうか。そして、古来より、この食べるという手段には、「味」という要素が常に重要な意味をもっていました。

さて、人間の味覚には、甘いから辛いまで、微妙な中にも多くの種類がありますが、基本的には、「甘い」、「酸っぱい」、「塩辛い」、「苦い」の四つである、というのが世界の食品科学者の通説でした。

しかし、味に鋭敏な日本人は、これにいわゆる「うまみ」という味を加え、鰹節、コンブ、などを使って大切にしてきました。そして、1980年に池田菊苗博士が「グルタミン酸ナトリウム」を発見して以来、「うまみ」の研究が急速に進み、現在では、四つの味にこのうまみを加えて、五味を基本味とする人が多くなっています。ただし、日本で昔から言われている五味とは、この「うまみ」の代わりに「辛味」を加え、甘酸苦鹹（塩辛い）辛の五つをいっています。このように人間の舌は、4つから5つの味を効き分け楽しめるように、実に巧妙にできています。

(2) うまさは天然のなかに

それでは、「うまさ」とは何でしょうか。先にもふれましたように、科学調味料が発見されて以来、味の研究は急速に進歩しましたが、味覚とは何か？という定義づけはまだなされておられません。

ところで日本では古来より自然の調味というものを非常に大切に、粗塩のほかに、酸味には梅酸を使ったり、甘味には「あまづら」というツタの一種やかきの皮などを用いました。

(3) 甘味を使いすぎる現代

しかし、蔗糖が発見されて以後、これの使い過ぎで、料理、酒など、やたらと甘くなってしまいました。また、その他の甘味料や科学調味料の使用量の増大は、人間の味覚に対する、「うまさ」の感覚をマヒさせてしまいました。

本来の物のうまさは、酸味のなかにも、渋味のなかにもなければならぬものですが、うまさを「甘さ」と誤解している人が、現代ではとくに多くなっています。

(4) 純度のみを追う近代化学

これは、分析に基本をおく近代化学の弊害が、人間の味覚にも及んだよい例です。分析に基づいた近代化学は、味覚にもこれを持ち込み、とにかく純度の高いものをつくり出そうとしました。その結果、「うまさ」とか「風味」とかいった微妙な味を切り捨てることになりました。

一例を挙げれば純度の高い食塩（塩化ナトリウム NaCl ）と純度の低い粗塩を料理、漬物に使用した場合、そのうまさと風味は、誰でも驚いてしまうほど、格段の相違があります。また、醤油に例をとりますと、醤油には約13%の食塩を含んでいますが、そんなに塩辛くは感じません。ところが、化学塩13%の食塩水をつくってなめてみますと、醤油と比較にならないほど塩辛く、舌にピリピリ感じるぐらいの刺激があります。

この例をみても、味のなかにもうまさが存在することが、よくわかりいただけると思います。

(5) うまさとM. D. A.

さて、それでは、「うまさ」とM. D. A現象との関係についてみることにしましょう。うまい、まずい、痛い、痒いなどの感覚、楽しい、悲しい、苦しいなどの感情、考える、見る、聞く、動くなどわたしたちが日常行っているさまざまな行為、こうしたすべての現象は、電子の組織的な動きと、電子の過不足による現象によるのです。

疾病などにより、身体が酸化（電子の組織的な動きが弱まり、電子が不足する）すると、味覚が変わり嗜好が急変するのもこのためです。



(6) 物質には・電気回路がある

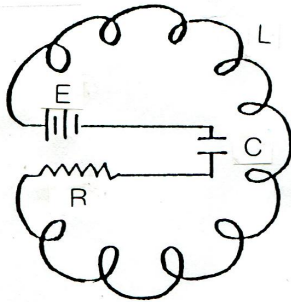
各物質（パン、米など、なんにでも置き換え
て下さい。）分子は電磁電気回路をもっていま
す。この回路はL、C、E、Rの組合わせから
なり、L、C、Rが存在する限り物質には固有
の周波数（波長）があります。そして、L、C
の共振回路は外部からの電子波長により誘導電
流が流れL、Cを構成する。材料に抵抗成分が
存在しない共振回路ならば、震動電流の振幅は
減衰することなく、無限に持続するのですが、
実際には抵抗成分Rが存在するため、周期（波
の間隔）は一定ながら、振幅は次第に小さくな
ります。

L=自己インダクタンスコイル

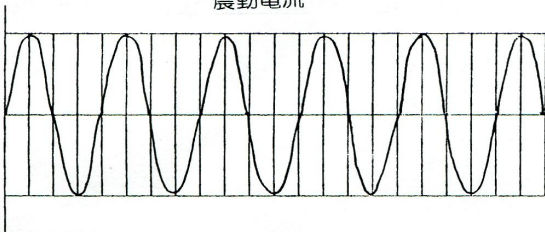
E=電 源

C=キャパシテイ

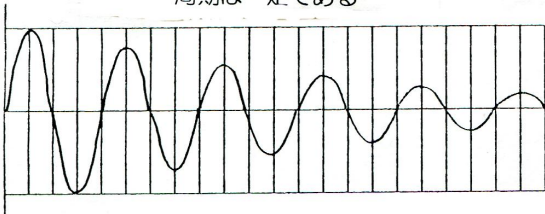
R=抵 抗



震動電流



周期は一定である



したがって、電磁、電気回路をもつ各物質分子
に、特定の電子線（M. D. A）を照射すること
により、各物質分子は鋭敏な反応電流を生じ
て、分離結合をくり返し、独特な物理化学性能
を表して還元されます。

このことを言葉を変えていえば、物質のもつ
本来の特性（良さ）が現れるということです。

※MDAレポートは皆様のミニコミです。MDA
レポートに関するご批判、ご意見ご提言、皆様
の体験レポート（家庭用、工業用）あるいはご
質問など何でも結構です。書欄にて当社までお
寄せください。

〒921-8831

石川県石川郡野々市町下林4-499-2

丸子電子株式会社

TEL<076>246-6806

FAX<076>248-0103

MDA特性総合研究所

TEL<076>246-6863